

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 あやとり)

事業所番号	0671500288		
法人名	社会福祉法人 長井弘徳会		
事業所名	グループホーム リバーヒル長井		
所在地	〒993-0061 山形県長井市寺泉3081-21		
自己評価作成日	平成30年 9月 6日	開設年月日	平成15年 10月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市内や近隣の祭り、催し物などやその方にとって馴染みの場所に出掛ける機会を多く持ち、畑での収穫やその収穫物での調理を通して季節を感じ、その方の生活スタイルに合ったその人らしい暮らしが送られるように配慮しています。法人に4つのグループホームがある利点を活かし、お互いに訪問し合う事で、ご利用者や職員の交流を図り、閉鎖的にならないような工夫をしています。又、職員を対象とした所内研修や外部研修への参加を奨励するなど、最新の認知症介護について学びを深める機会を持ち、介護現場に活かして行くよう努力を重ねています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 30年 10月 22日	評価結果決定日	平成 30年 11月 13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中でその方らしい生活を支える為に、職員の思いを取りまとめ理念を事業所内に掲示している。また、ネームプレートにも入れ、常に携帯して意識付けを行なっている。スタッフ会議などでも理念に沿ったケアが出来ているかを確認し、次のケアにも繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、地域の個人宅へ雛飾りを見学に向った。外出の際はボランティアとして同行して頂いている。地元婦人会などに来訪頂き、一緒に郷土料理も作った。定期的にお抹茶の会も開催している。GHの芋煮会や忘年会には、推進委員や市職員に毎年参加頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議で委員の方に認知症の事例紹介や日々の生活の様子を写真で見て頂き、認知症の理解や支援のあり方を啓蒙している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、地域代表、家族代表に委員になって頂き会議を行なっている。委員の方からは、地域の情報や運営に関する意見を頂いたり、事業所からは状況報告を行ない、双方向的な話し合いが行われている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議では市職員から、また地域包括センターに出向中の職員を通じて、市や他事業所の情報を得ている。また、芋煮会や忘年会にも参加頂き、家族や利用者との交流を図って頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	法人職員を対象とした身体拘束防止についての学習会に参加し理解を深めている。事業所の玄関には鍵をかけず、常に利用者一人ひとりの行動を把握し、声かけや見守りを行なっている。GH内で身体拘束適正化委員会を設け、3ヶ月毎に会議を開催している。現状について話し合い、内容についてはスタッフ会議で全職員に周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	「身体拘束をしないケアの実践」と同様に、法人職員を対象とした学習会に参加して理解を深めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人職員を対象とした、権利擁護やコンプライアンスについての学習会に参加し理解を深めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取り丁寧に説明している。特に利用料金や重度化、看取りについての対応、医療連携体制などについては詳しく話し、同意を得ている。入院に伴う退去についてや将来的な内容についても触れ、不安や疑問に答えられるようにしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人全体で3年に一度、アンケート調査を実施し、玄関にも「ご意見箱」を設置している。推進委員の利用者代表の家族の方に会議の際に意見や要望を述べて頂いている。家族の来訪時や電話、家族会等での意見を反映している。			
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議にて事業所の決定事項を伝達し、職員の意見も聞いている。必要時には管理運営会議に反映する様にしている。いつでも法人への意見や要望を聞く準備がある事を職員へ伝え、話しやすい環境に努めている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体として、人事考課様式をもとに職員の評価を行っている。日頃から上司とコミュニケーションを図り必要時には個人面談を実施している。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内階層別研修制度や国家資格取得に関する支援制度を活用し、職員が働きながら学べるよう工夫している。外部研修についても、社会福祉協議会主催の研修やGH協議会の交換実習、GH大会に参加等が出来るように配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修、市主催研修、GH協議会の定例会議や交換実習、GH大会等に参加し、他事業所の方々と交流し、意見や情報交換を行いサービスの向上に取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問や実調、ホーム内見学等で本人の要望や心配事等を伺い、これからの住まいとなるGHでの住環境や利用者同士の対人関係に配慮し、本人の安心が確保出来る様に努めている。自宅で使用していた馴染みの物を持参して頂き、安心出来る様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者と家族との関係性も踏まえ、要望や心配事を確認し、信頼関係を築ける様に努めている。来訪時や電話などで心配事や悩みなどを聞く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の意向を確認し、ケアプランに反映させ統一ケアに務めている。母体の総合相談センターとも連携し、状態に応じた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活で利用者一人一人の能力が発揮出来る様、負担にならない範囲で食事準備、洗濯物干しや畳み方、フロア内の掃除、畑からの収穫などの作業をして頂いている。一緒に行う事で昔ながらの知恵を教えて頂き、馴染みの関係と信頼関係が築けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年4回の近況報告や来訪時、電話などで状態を報告している。ご家族からも情報を頂き、本人にとってのより良いケアを、一緒に考えながら共に本人を支えていく関係を築けている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得て、友人とカラオケに出かけた方がいたり、外食に出かけられた方もいた。友人の方が来訪され、昔を懐かしみながら過ごされていた方もいる。お正月やお盆には自宅に帰り、ご家族と過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶会時には一つの空間に集まり、皆で顔を合わせて過ごしている。利用者の状態に応じて、職員が会話の仲立ちをしたりして、円滑に楽しく過ごせるように配慮している。時にトラブルになることもあるが、一人になれる時間を作ったり、さり気なく職員が間に入って対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状態の変化などで入院された方には、電話で様子を伺ったり、面会をしてご家族から話を聞き、必要な支援があれば対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度、利用者やご家族から話を聞き、センター方式アセスメントを活用して、意向の把握に努めている。本人の日頃の言動や表情からも思いを汲み取れるよう努め、職員間で共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族に記入して頂いたセンター方式のシートや、事前の訪問時に直接本人やご家族に話を聞いて情報を得ている。入居後も、都度本人に聞いたり、来訪時や電話にてご家族から情報収集をして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者が持つ力を発揮出来るよう、声かけや関わりを工夫して支援している。一人ひとりの生活のリズムを尊重し、無理のない日課への参加を促し、本人のペースで過ごして頂いている。水分や食事が進まない時はチェック表を用いて状況把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者やご家族の意向に沿って担当者が作成した原案を元に計画作成者が修正し、ケアプランを作成、カンファレンスを開催している。3ヶ月毎にモニタリングを行ない、評価や見直しを行なっている。また、状態に変化があれば、都度見直しを行なっている。都合の付くご家族にはカンファレンスにも参加して頂き、意見をもらっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や言動、介護計画の実施状況を毎日記録に残し、出勤後には必ず記録に目を通して各自情報収集している。必要時には介護計画の見直しや検討を行ない、変更があれば変更箇所が分かりやすいように明示したり、声かけをして意識付けを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>企業ボランティアの方に事業所内の環境整備を行なってもらっている。地元婦人会の方々に来訪して頂いて郷土料理を作ったり、外出時に同行して頂いて交流を図っている。地域の行事にも参加している。</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者・ご家族が希望するかかりつけ医となっている。受診時には、日頃の状態を記入した連絡表を持参して頂き、かかりつけ医には、受診結果や指示を記入して頂いている。状況により家族が同行出来ない場合や、適切な医療を受けられるよう、本人の状態をより詳しく正確にお伝えする為に職員が付きそう支援も行なっている。</p>			
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>法人内の看護師と医療連携体制を取り、日頃の体調管理や状態変化時に報告相談して診てもらい、状況に応じて受診に繋げている。毎日の介護記録や温度板などで情報を共有している。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には必要な情報を医療機関に提供している。入院中の本人の状態をご家族に電話で聞いたり、職員が病室に伺い情報を得ている。必要時はご家族と共に医療関係者と面談させて頂いている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に「重度化した場合の指針」についてご家族に説明し同意書を頂いている。、重度化した場合には、ご家族や主治医に相談し「看取り同意書」の取り交わしを行ない、ご家族、主治医、医療連携看護師と連携を密にし、話し合いの場を設けて、内容を記録し職員全員が情報を共有して支援を行っている。看取り同意書の取り交わし後も、ご家族の意向を再確認し、不安や悩みなどが軽減出来るよう努めている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修に参加した職員より、伝達研修を行い事故発生や救急時の対応についての訓練を行っている。事業所内でも1～2ヶ月毎に昼夜想定で訓練を実施している。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、消防署の主導で年2回訓練を実施している。事業所内でも定期的に昼夜を想定した訓練を行なっている。地元の2地区と災害協定を結び協力体制を築いている。運営推進会議でも、委員となっている市職員や地域の方に参加して頂き、実際に利用者の誘導を体験して頂きながらの訓練を行なっている。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者の尊厳やプライバシーを傷つけないよう本人の立場に立った声がけや、場面に応じた対応を行なっている。			
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が主体となり、思いや希望を表現出来るように、話を傾聴している。日常的に自己選択や自己決定が出来るように働きかけを行なっている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れはあるが、利用者の思いに寄り添いながら支援している。その日の希望を尊重している。その日の体調や個々の生活リズムに合わせて対応を行っている。利用者の生きがいや楽しみを情報共有しながら支援している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服装は本人が選んでいる。選べない方は季節に合わせた衣類を本人の好みを尊重し選んでいる。入浴後の保湿クリーム、整髪等も希望を伺い行なっている。床屋の希望も本人の意思に添って予約をしている。困難な方には家族や職員の判断で定期的に行っている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で育てた野菜や季節に合った旬の食材を使用し、職員と一緒に調理や盛り付け、片付けを行っている。希望や好みを伺い、苦手な物は代替品を提供している。誕生日には本人より大好きな物を伺い取り入れている。職員も同じテーブル楽しく食事している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節の物を取り入れ好みに合った食事の提供を心掛け、体調や摂取状況に応じて都度、食事形態を工夫し、栄養バランスの確保に努めている。状態により法人STに嚥下状態を見てもらい、アドバイスを受けている。栄養、水分摂取状況の確認が必要な方にはチェック表を用いて状態把握に努めている。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に応じて口腔ケアの声掛けや必要に応じて介助を行い、口腔内の清潔を心掛けている。週2回、義歯洗浄剤を用いて洗浄もしている。看取りの方には口腔内の清拭を行い、清潔保持と誤嚥にならない様に支援している。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を用いて個々の排泄パターンやサインを把握している。自立した排泄が出来る様に職員間で情報の共有をしている。自尊心を傷つけない声掛けや誘導を行っている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医や医療連携看護師と連携し、情報共有に努めている。自然排便となるように繊維質の多い食材や乳製品等を取り入れている。腹圧を掛けやすく自然な排便体勢が取られる様に工夫している。状態により主治医に相談し、下剤でコントロールしている方もいる。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の希望する時間帯や体調に応じて入浴が出来る様に心掛けている。入浴を拒む時には声掛けや時間を見ながら対応している。洗髪を拒む方は気持ちを尊重し対応している。状態により浴槽に入る事が困難な方には入浴チェアを使用し、シャワー浴で対応している。又、入浴が出来ない方には清拭、手浴、足浴を実施している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムや体調に合わせて、休息や就寝が出来る様に支援している。眠れない方には側で寄り添いながら話を傾聴し、安心出来る声掛け等を心掛けている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書と照合し二人で声出し確認し仕分けを行っている。薬ケースに1日毎に食前、食後、就寝前、起床時に分け、間違いのないようにしている。内容の変更も記録と伝達をし、職員間で周知を図っている。服薬時には名前の声出し確認をし、本人からも確認をとっている。副作用についても把握するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人ケース録や日常の会話の中から情報を収集し、今まで経験してきたことが十分活かせる場面を提供出来る様に心掛けている。一人一人の興味のあること、楽しみ等を見つけてプランに反映し、楽しく張りのある生活が出来る様に支援していく。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と共に外出し、食事や買い物等をされる方もいる。希望に添って散歩やドライブに出掛け、気分転換を図っている。あまり遠くに行かれない方も天気の良い日はちょっと外に出るだけでも気分転換になっている。ボランティアの協力を得て、地域の行事やお祭り、季節の花を鑑賞するバスハイクを企画し、外出支援を行っている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での管理が困難な方には家族や本人の希望でGHで管理している。希望に応じて使用できる様に支援している。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じていつでも電話が出来る様に支援している。遠方の家族に手紙を出す方もいる。毎年、家族や友人に年賀状を出している。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室に仏壇や神棚を設け、家庭的で落ち着ける環境にしている。窓から見える畑に季節の野菜を作り話題にし、季節感を感じられるようにしている。毎日、温度、湿度計を測定し、快適に過ごされる様に配慮している。エアコンの風が直接当たらない様に工夫している。職員も環境の一部であることを認識し、話し声や行動に配慮している。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やフロアにソファを置き、一人でゆったり過ごしたり、気の合う方とゆっくりと会話が出来るようにしている。ご利用者との関係性や状態に応じて配置替えをしたり、居心地良く過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの物や日用品、思い出の物などを身の回りに置き、落ち着ける居室作りをしている。ベットなども個々の状態に配慮した配置にし、居心地良く過ごして頂ける様にしている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレの場所が分かり易い様に名前や案内を明示している。室内は、安全に出来るだけ自立した生活が出来るようなベットやソファの配置にし、手摺りを設置している。作業を自立的に安全に行えるよう、フロアから見える所で行なってもらっている。		